

樹脂メーカーの現場を原料加工装置で支える

オンリーワン技術
メインジャンル



廃プラの粉碎・洗浄・脱水処理装置

業務内容
ペレット粒の脱水・乾燥、廃プラ再生も

プラスチック製品の原料ペレット（粒）の製造工程でタナカの各種装置は活躍している。合成樹脂原料をペレットにする工程に必要なカット、脱水、選別、混合、乾燥する装置類が主力製品。田中敏資社長は「あつたら便利で世の中にまだないものを開発するのが創業からの方針」と話す。開発の実績は豊富で、大手化学から中小成形メーカーまで、顧客の生産工程で広く使われている。もう一つの柱が廃プラスチックのリサイクル分野。廃プラスチックを破碎・洗浄・脱水する装置類でも、市場で高いシェアを持つ。

独自の機構、丈夫で高品質の加工

強み
約30年来、樹脂の生産現場に携わり、様々な樹脂に適した加工方法を熟知し、装置を自社開発してきた。各装置は稼働の安定性に定評がある。特殊鋼を加工して装置の主要部に用い、高い剛性を持たせているのが、その秘訣。樹脂ペレットの脱水・乾燥装置では、脱水機構を縦型で密閉円筒の回転体にした独自構造で、優れた脱水機能を持つ。密閉円筒に多数の羽根を斜めに溶接した仕様は、他社が容易にまねできない様々な設計の工夫がある。最近では、ペレットを効率良く空冷する装置「ミストラル」を新たに開発した。これらに加えて経営面では無借金を堅持し、企業基盤が安定しているのが強い武器だ。

独自点
部品共通化、開発の着眼、先読みし取り組む

装置類は部品仕様を標準化して、効率的な開発・生産と、また長年のユーザーのメンテナンスの対応にも役立てている。職人肌だった創業者が2代目の田中社長にバトンタッチする際に、属人的な技能を標準化するよう改革し、現在の品質管理の基盤として生きている。市場ニーズを先取りし、粘り強く需要を開拓してきたのも同社の特徴。リサイクル装置は、ペットボトルが1970年代に日本に上陸する前から開発に取りかかった。当時日本では廃プラスチックは埋め立て処分が主流で、同社開発の装置も売れない時期を味わったが、5年を経て社会的関心が高まり、脚光を浴びた。今では容器包装リサイクル法に対応した廃プラのマテリアルリサイクルを広く支えている。

国内は新本社工場、タイにも進出

今後の展望
新たな戦略として、東大阪市、八尾市の計5カ所に分かれた工場を集約する準備を始めた。現本社の近隣を候補地に、数年後に新本社・工場を建設する構想だ。ユーザーの海外展開に対応した一手も打った。装置の納入先で東南アジアが増えていることに対応し、タイに装置メンテナンスを手がける現地法人の設立作業を進めている。将来は現地の装置生産を見据えている。



東大阪市の現本社

COMPANY PROFILE 株式会社タナカ

大阪25

当社の歴史

先代が鉄工所として創業し、昭和30年代に日本の化学産業が興隆するのに伴い、プラスチック原料の加工機械の製造を始め今日に至ります。プラスチック草創期に先代は、台風災害で化学メーカーの樹脂タンクからペレットが流出して泥まみれになった時に、共同で洗浄に取り組んだり、また廃ペットボトルでも米國からプレス品を取り寄せていち早く処理法の開発にあたり、先駆的な仕事をしました。

『信用無形資産也』をモットーとしています。

代表取締役社長 田中 敏資さん



■主な事業内容
プラスチックのペレット製造設備、リサイクル関連機器類の製造・販売・メンテナンス

■主な取引先（納入先）
化学会社

住所 / 〒578-0935
東大阪市若江東町
6-3-32
TEL / 06-6728-4800
FAX / 06-6724-0489
創業 / 昭和36年4月
設立 / 昭和51年10月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 22名

<http://www.kk-tanaka.co.jp>